

## 集中治療部

■診療部長 恒吉 勇男

■研修実施担当者 谷口 正彦

### 教育施設として認定を受けている学会

集中治療専門医研修施設

### 診療部の概要

集中治療部は現在 16 床で運用しています。外科系、内科系、小児、救急に関わらず、院内・院外の集中治療管理を要する重症患者を収容しています。

各診療科の主治医はそのまま、集中治療専従医と共同で治療を行う semi-closed の体制をとっています。現在、7 名の集中治療専従医が 2 交替勤務で運営しています。

### 研修症例の特徴

大手術後（心臓・大血管、呼吸器、食道、肝・胆・膵、頭頸部などの手術）の患者の周術期管理をはじめとして、敗血症、循環不全、呼吸不全、腎不全、肝不全、外傷、中毒、熱傷などさまざまな病態の患者の集中管理が経験できます。

2017 年度の収容症例は 1,084 名で、その約 7 割が術後管理症例です。残りの 3 割が緊急入室で、病棟急変症例や緊急手術後、院外からの救急搬送症例に対応しています。

### 研修目標

#### 【一般目標 (G10)】

- 周術期（特に術後）管理に精通する。
- 急性重症患者の病態を把握し、診断・治療に必要な検査・手技を修得する。
- 患者の生命維持に必要な臓器補助・代替装置の適応を理解する。

#### 【個別行動目標 (SB0s)】

- 術後の呼吸管理、循環管理、鎮痛・鎮静、ドレーン管理、体液管理などを習得する。
- 重症患者の呼吸・循環管理、感染対策、鎮静法、栄養管理、体液管理を習得する。
- 人工呼吸器の適応、各種モード、離脱の方法について理解する。
- 重症患者管理に必要な特殊モニターの適応を理解し、読解できる。
- 末梢または中心静脈ルート確保、動脈カニューレションが安全に施行できる。
- カテコラミンなどの特殊薬の使用法を理解する。
- 安全確実に気道管理（気管挿管、気管切開を含む）を行うことができる。
- 血液浄化療法（CHDF、PMX、PE など）の適応を判断し、回路を組み立てることができる。
- 担当患者の病態、問題点、治療・管理法などについてカンファレンスでプレゼンテーションができる。
- 集中治療における重症患者の末期医療のあり方について理解する。

## 研修方略

### 【指導医および指導体制】

集中治療専門医、日本麻酔科学会指導医からの直接指導が受けられます（チーム指導）。

### 【勉強会やカンファレンスなどの研修教育活動】

毎朝、全症例についてそれぞれの担当診療科と合同カンファレンスを行い、病態の把握や治療方針の決定・変更を行っています。毎夕にもベッドサイドラウンドを行い、夜勤者への申し送りを行っています。

金曜日に救急・集中治療関連の抄読会を、月曜日に勉強会やミニレクチャーを行っています。

### 【週間スケジュール】

	午前		午後		
月	合同カンファレンス	患者診療	患者診療	午後ラウンド	勉強会
火	合同カンファレンス	患者診療	患者診療	午後ラウンド	
水	合同カンファレンス	患者診療	患者診療	午後ラウンド	
木	合同カンファレンス	患者診療	患者診療	午後ラウンド	
金	合同カンファレンス	患者診療	患者診療	午後ラウンド	抄読会

## 研修評価

- オンライン卒後臨床研修評価システム（EPOC）による研修実施内容の評価（観察記録）

## 指導医・先輩医師からのメッセージ

術後管理に限らず、様々な内科系重症疾患の集中治療管理を経験できます。各診療科との協力体制も整っていますので、専門性の高い指導も広範囲に受けることができます。1ヶ月の研修では症例が偏ることがあるので、2ヶ月の研修が望ましいです。